

～公民館を核とした持続可能な地域づくり推進事業～

公民館ふるさと教育推進事業 取組事例

テーマ

高山地域にある教育資源（ひと・もの・こと等）の宝を活かした取り組みを行い
地域にある宝をみんなで守り、磨き、育てていく
～ 伝えよう、育てていこう地域の宝（ひと・もの・こと） ～

事業実施地区（中学校区名）	大田市立第三中学校
事業実施公民館等名 （中学校区内にある全ての公民館等）	大田市立高山公民館 大森まちづくりセンター、水上まちづくりセンター、 祖式まちづくりセンター、大代まちづくりセンター

テーマの背景

高山公民館のある地域は、広島方面からの玄関口に位置し、大森、水上、祖式、大代の4町からなり、石見銀山をはじめとする長い歴史、大江高山に代表される豊かな自然がある。以前、「高山地域住民の地域活動・意識調査」を実施した結果、公民館への活動や事業要望として「健康づくり・医療に関する事業」「地域づくり・まちづくりのための学習や活動」「地域福祉活動に関する事業」「子育て・家庭教育支援事業」が多くあった。今回は、地域づくりやまちづくりを進めていくうえでの基盤となる、地域を知り、地域に愛着を育むための学びの場を設定し、事業を行った。

実際の取組

⑤ふるさとの「ひと・もの・こと」を次世代に伝え、守っていく活動

事業名： 高山4町地域めぐり

<取組の概要>

高山エリアが誇る宝である名所旧跡や町並み、自然、伝統芸能等を記載したマップ（俯瞰図）を活用しながら、4月から10月の間に高山4町を散策する事業を行った。世界遺産「石見銀山」ならびに高山エリアの宝を再認識するとともに、この貴重な自然・歴史・文化遺産を今後も大切に保護し、次世代に受け継いでいこうという気持ちを育んだ。

4月・・・大江高山自然観察会

6月・・・インスタ映え ダイヤモンド三瓶

10月・・・ガイドさんと銀山さんぽ 11月・・・銀山街道を歩こう



<成果と課題>

参加者からは「長く地元に住んでいるけれど初めて来た。」「こんなすばらしいものがこんな近くにあるとは知らなかった。」「もっと多くの人に知ってもらいたい。」などの声があった。これらの地域のよさや文化を地域の人たちがどのようにとらえ、活用していくのかを、今後、協力しながらつくってきたい。



④ふるさとの魅力や価値に気づき、理解を深める学びの場を設定

事業名：海っこ 山っこ

<取組の概要>

地元の人にとって普段見慣れたものは、すばらしさを感じることは難しいといわれている。子どもたちがふるさとのよさに気づくために、他の地域の人からふるさとのよさを価値づけてもらおうと、海に接する大田市立西部公民館と共催で子どもたちがそれぞれの地域



を行き来しながら体験活動を行う事業を一昨年から始めている。初年度は西部公民館へ出かけ、アクアスの職員から海の生き物の観察方法について指導を受け、海遊びを行った。本年度は高山公民館の地域を会場として、島根県農林水産部の「物知り出前講座」を活用し、森林の成り立ちについて話を聞いた後、川遊びや魚釣りなどを行った。

<成果と課題>

保護者からは「昔このあたりには良く来ていたが、久しぶりに来て懐かしく思った。」「すばらしい環境があることがわかって本当に感謝している。」、子どもたちからは「初めて魚釣りをしておもしろかった。たくさん釣れてよかった。」などの感想があった。自分の住むふるさとのよさを感じたのではないかと思う。



事業の参加については、同じ大田市でも少し距離があるための移動方法や、忙しい子どもたちに参加してもらうための方法を考える必要があると感じた。

まとめ

テーマに迫るためのポイント

- ① 高山地域にある教育資源（ひと・もの・こと等）の宝の発掘
- ② 地域の人たちにその宝を感じてもらう。
- ③ 地域の人とともに発信（他地域の人及び地域出身者）
- ④ 公民館が企画し始めた事業を地域の方々が担う。

今後の展望

「この事業を今年もされますか。」と聞かれることが多くなった。地域のすばらしい景色を発見し、もう一度見てみたいという気持ちが育まれてきたのではないかと思う。このような人を増やしていくことが重要であり、育っていく可能性は高くなっていると思う。その人によってその事業をさらにすばらしいものにしていくことができるのではないかと考えている。